

Ⅲ 調査結果のまとめ（令和7年度）

1 総合的にみた結果

- ・小学校（第1学年女子以外）及び中学校においては、昨年度のTスコアの総合平均を上回っている。
 - ・高等学校（全日制）は、全国平均を上回る体力項目が男女ともに9割以上である。
- 総合判定結果（A～Eの5段階）では、男女とも年齢が進むにつれてC以上の児童生徒が増加し、E判定の児童生徒が減少する傾向にある。
 - A判定の割合について、校種別に比較すると、男子は全日制高等学校が最も高く、女子は、中学校が最も高い。
 - 定時制高等学校では、他の校種と比較すると男女ともA判定の割合が低く、D・E判定の割合が高い。

2 全国平均との比較

「体力・運動能力調査」（6歳～79歳）における比較

全国平均と同様か上回る項目の割合

小学校（全学年）	約28%（27項目／全96項目）
中学校（全学年）	約33%（18項目／全54項目）
高校・全日（全学年）	約93%（50項目／全54項目）
高校・定時（全学年）	約30%（19項目／全64項目）

- 中学校は全国平均と同様か上回っている項目の割合が昨年度より増えた。
- 小・中学校及び全日制高等学校男女の「長座体前屈」で、全国平均と同様か上回る学年が多く見られた。
- 小学校女子、全日制高等学校男女の「ボール投げ」で、全国平均と同様か上った。
- 全日制高等学校男女の「持久走」以外の項目で、全国平均と同様か上回った。
- 小・中学校の男女の「反復横とび」「20mシャトルラン」で、すべての学年で全国平均を下回った。

【参考】「令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」（小5・中2）

体力テスト合計点平均の全国順位

小5（男子）	24位	小5（女子）	18位
中2（男子）	22位	中2（女子）	19位

- ・小学校の体力合計点の全国順位は、令和4年度以降、3年連続して上昇。
- ・令和7年度の小学校女子及び中学校の体力合計点は、全国平均以上。
- ・令和7年度の体力総合評価A・B群の児童生徒の割合は、小中学校ともに全国に比べ高い。

3 校種別にみた結果

<小学校>

- 女子では、「ボール投げ」において、すべての学年で全国平均と同様か上回った。
- 昨年度と比較すると、男女の「反復横とび」で、第2学年以降の学年で記録が向上した。また、男女の「上体起こし」で、第4学年以降の学年で記録が向上した。
- 昨年度と比較すると、男子の「立ち幅とび」で、第3学年以降の学年で記録が向上した。
- 男女の「反復横とび」「20mシャトルラン」で、すべての学年で全国平均を下回った。
- 男子の「50m」女子の「握力」で、すべての学年で全国平均を下回った。

<中学校>

- 男女の「長座体前屈」で、すべての学年で全国平均と同様か上回った。
- 昨年度と比較すると、男女の「長座体前屈」「50m走」で、すべての学年で記録が向上した。
- 男子の総合判定は、学年が進むにつれてA判定の割合が増え、D・E判定の割合が減少する傾向にある。
- 男女の「20mシャトルラン」「持久走」「立ち幅とび」で、すべての学年で全国平均を下回った。
- 昨年度と比較すると、男子の「20mシャトルラン」で、すべての学年で記録が低下した。

<高等学校（全日制）>

- 男女の「持久走」以外の項目で、すべての学年で全国平均と同等か上回った。
- 男女の「長座体前屈」「反復横とび」で、すべての学年で全国平均と比較して特に高い値を示した。
- 総合判定では、男女ともに学年が進むにつれてA判定が多くなり、E判定が減少する傾向にある。第3学年男子ではA判定の割合が約35.6%とすべての学年で最も高い値を示した。
- 第1学年男子及び第3学年女子以外の学年の「持久走」については全国平均を下回った。
- 昨年度と比較すると、54項目のうち約半数の28項目で値が低下した。

<高等学校（定時制）>

- 男子の「握力」で、すべての学年が全国平均と同様か上回った。
- 総合判定では、男女とも学年が進むにつれてE判定の割合が減少する傾向がある。
- 全日制と比較すると男女ともA・B判定も割合が少なく、D・E判定の割合が高い傾向にある。

4 本県の体力状況と指導の方向（考察）

（1）体育・保健体育以外の時間に運動する習慣を身に付ける

- ・令和7年度調査において令和6年度調査と比較すると、数値が増加した項目は130、減少した項目は102で若干の回復傾向がみられたと言える。特に、小・中学校で数値が増加している。小学校体育授業にACP（アクティブ・チャイルド・プログラム）等の運動遊びを積極的に取り入れ、運動に没頭する時間を確保するとともに、休み時間においても、体育授業で学習した運動遊びが広がったことが要因の一つと考えられる。中学校では、「体を動かすことの楽しさ」「技や動きができるようになることの楽しさ」を大切にした授業実践を行ったり、生徒が「体育の授業が楽しい」「運動が楽しい」と思う、授業づくりのための教員研修を継続したりして実施していることも要因の一つと考えられる。
- ・令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査によるとスクリーンタイム^{※1}は増加傾向が見られ1週間の総運動時間も全国平均と比較すると少ない。今後は、仲間と運動する楽しさを味わう体育・保健体育の授業を充実させ、「運動が好き」「体育が楽しい」という児童生徒を育み、体育・保健体育以外の時間や家庭での運動をする習慣を身に付けるようにしていくことが必要である。

（2）低学年において、一定の運動量を確保する

- ・小学校低学年では、多くの項目で全国平均を下回っており、その後、年齢を重ねるにつれて全国平均との差が小さくなることから、特に低学年においては学校などで一定の運動量を確保していくことが重要であると考えられる。
- ・小学校低学年の体育の授業において、運動の楽しさや喜びを味わいながら、体を動かすことができる運動遊びなどの活動を充実させ、授業での運動時間を増やすとともに、児童の業間や休み時間における自発的な運動への取組につなげていくなどの工夫が求められる。

（3）全身持久力の向上

- ・特に、小・中学校においては、「20mシャトルラン又は持久走」において全国平均を大きく下回る傾向が見られることから、全身持久力を高めるための運動が求められる。
- ・児童生徒の実態に応じて、継続的な運動につながる取組を行うことで全身持久力の向上を促すよう留意する。

（4）体力向上の取組の充実

- ・全国平均を上回る項目の割合は、高等学校になると増える傾向が続いていることから、幼児期や学童期において、体育の授業における運動遊びや体育の授業以外でも体力向上に関わる取組みを充実させることが必要である。
- ・園児及び児童生徒の体力向上や運動習慣の定着を図るには、園や学校の資源を一体的にマネジメントし、生活の中で様々な運動機会の確保を図ったり、多様な動きを経験できるような指導の充実を図ったりすることが必要である。

※1：平日1日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機などによる映像の視聴時間

IV 今後の取組

運動が苦手な児童生徒が進んで運動に親しむことができるように体育・保健体育の授業改善を図ったり、授業外における取組に積極的に参加したりすることで「運動が好き」「体育が楽しい」と感じる児童生徒を増やし、運動習慣の定着を図る。

1 授業における取組

- ・アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）^(*1)等の「運動遊び」を積極的に導入する。
- ・運動に苦手意識を感じている児童生徒に対して「体育が楽しい」と感じる児童生徒を増やすための手立てを工夫する（ICTの効果的な活用等）。

2 授業外における取組

- ・チャレンジスポーツ in ぎふ^(*2) を活用推進する（取組事例紹介とHPリニューアル）。
- ・ぎふっこダンスフェスティバル^(*3) を活用推進する（取組事例紹介）。

3 教職員への周知及び研修

- ・大学教授及び小中学校の教員による「体力向上プロジェクト検討会」を実施し、児童生徒の体力の実態を把握するとともに、効果的な体力向上に関する取組を検討する。また、体力向上を図りたい学校に対し教員を派遣し、教職員向けの出前授業や講習会を実施することで、指導力の向上を図る。
- ・各地区で体育担当教員や体育主任などを対象にした講習会や研修会を実施し、児童生徒の体力の状況等を周知するとともに、自校の実態を正確に把握し課題を明確にした上で、体育・保健体育の具体的な授業づくりや運動時間を確保するための方策を立て、体力向上を推進する。

*1：アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）

- ・日本スポーツ協会が、子供たちの発達段階に応じて身に付けておくことが望ましい動きを習得する運動プログラムとして開発したもの。

*2：チャレンジスポーツ in ぎふ

- ・8の字跳びやチームジャンプ、ボールパスリレーなどの運動を、学級や学年、又は学年の異なる集団で取り組み、記録をWEB上で競い合う。それらの運動を通して、仲間と運動することの楽しさや記録向上の喜びを味わわせ、主体的に運動に親しむ習慣を育み、児童生徒の体力向上を図る。
- ・令和元年度から新しい種目として新体力テストの9種目を設定。児童生徒が自己の体力の向上に向け改めて各種目に取り組み、課題とした種目をもう一度計測し、学級の平均記録の差を競うことで運動に対する興味関心を養い体力の向上を図る。

* 3 : ぎふっこダンスフェスティバル

- ・同じ学校の2名以上の児童生徒が、指定された楽曲の中から踊りたい曲を選曲し、オリジナルダンスを創ってエントリーしたり、またエントリーされた仲間の作品を見たりしてダンスの楽しさに触れる。エントリーされた作品は、体育健康課のYouTubeチャンネルに掲載され、全ての作品に、専門家によるコメントが掲載される。

仲間と作品を創り上げる楽しさや運動の楽しさを味わうとともに、日常における運動習慣を身に付け、体力向上を図る

参 考

〈テスト項目と体力評価〉

テスト項目	体力評価	テスト項目	体力評価
握力	筋力	シャトルラン又は持久走	全身持久力
上体起こし	筋力・筋持久力	50m走	スピード・走能力
長座体前屈	柔軟性	立ち幅とび	筋パワー
反復横とび	敏捷性	ボール投げ	筋パワー・投能力・巧緻性

〈標準偏差 (SD)〉

標準偏差とは、平均値を基準にして、集団の散らばり具合を示す度合いである。標準偏差が大きい場合は、その集団の散らばりが大きく異質集団であるといえる。その反対に標準偏差が小さい場合は、集団の散らばりが小さく等質集団であるといえる。

〈Tスコア〉

個人の記録を比較し、集団の中で相対的な位置を知ろうとする場合、異種目の比較や同一種目であっても異単位な場合の比較が可能な方法が必要である。その代表的な方法がTスコアである。Tスコアは、集団の平均を50点とし、そこから標準偏差の1倍離れたものを40点と60点に、2倍離れたものを30点と70点に換算した数値である。